# 令和元年度第1回八戸市総合教育会議 会議録

開催日時 令和元年10月15日(火) 午前9時

場 所 西白山台小学校

構成員 八戸市長 小林 眞

 教育委員会教育長
 伊藤 博章

 教育委員会委員
 武輪 節子

 教育委員会委員
 大庭 文武

 教育委員会委員
 簗瀬 眞知雄

 教育委員会委員
 油川 育子

案 件 ○施設を活用した授業の視察

- ○意見交換
  - ①特別支援教育の現状と今後の展望について
  - ②新聞活用事業及び読書指導について
  - ③タブレット機器等を活用した授業について

# 開会

# ○施設を活用した授業の視察について

(西白山台小学校 原校長より、資料に基づき授業の概要説明)

(原校長引率により、市長、教育長及び委員 授業視察)

- ① つばさ学級1組・2組:特別支援学級の授業について(自立活動)
- ② 5年1組:新聞を活用した授業について(社会)
- ③ 4年3組: ICTを活用した授業について(国語)
- ④ 1年1組:メディアセンターを活用した読書指導(読書)

(午前10時10分 休憩)

(午前10時20分 再開)

# ○意見交換

#### (小林 眞 市長)

本日は令和元年度第1回目の会議になります。平成27年度の制度開始から5年目になりますが、これまで様々な案件について意見交換を行ってまいりました。主なものとしては、教育大綱策定や新聞を活用した事業、小・中学校のスポーツ活動、こども支援センターの在り方などについて議論を深め、具体的な制度へとつなげてきたところです。これまで周年行事や開校記念等の式典では学校を訪問したことはありましたが、子どもたちが実際に活動している現場を見る機会がなかったので、今回初めて見させていただきました。本日は本当にお忙しい中、対応いただいた原校長を始め、多くの先生方、ご理解をいただいた保護者の皆様に深く感謝をしたいと思います。

## ①特別支援教育の現状と今後の展望について

#### (小林 眞 市長)

それでは早速、本日見せていただいた授業の話題を中心に、意見交換を進めてまいります。 今日は、特別支援学級の授業、新聞を活用した授業、タブレットを活用した授業、メディアセンターを活用した読書指導等を見ましたが、順次皆様のご意見を聞かせていただければと思い ます。まずは、特別支援学級の授業についてです。今回は私の隣にずっと原校長がいましたので、皆様に説明できなかった部分もあると思います。改めて、今日の授業のポイントをお話しいただければと思います。つばさ学級の1組、2組の特別支援学級についてお願いします。

#### (原寿校長)

最初に見ていただいた、つばさ2組の肢体不自由学級についてです。こちらでは、子どもたちが水道のある場所に立って何かやっていましたが、あの活動は目を1番から2番と順番に動かし、目と手を検査させるということが学習に大事だということで、一つの療育活動的なものとして、毎日授業の始まりに行っています。

#### (小林 眞 市長)

この活動は養護学校でもやっていますね。

#### (原寿校長)

第一養護学校の先生からご助言いただいて、継続的に行ったほうがいいとのことから、あそこの場所を使って行っています。たまに番号を変えたりしながら進めています。今日は指を中心にやっていましたが、部屋の奥にあるボールなども活用し、体幹トレーニングなども行っています。部屋の後ろに写真を貼っていましたけれども、昨年度の運動会では、車いすで入場したお子さんが、今年は自分で歩いて入場したり、徒競走で少し走ったりできるようになったりと、そのような形で日頃の積み重ねが表れていると思っています。また、授業のほうでは、カードを活用して、これが終わったら次はこれ、というように構造化したプログラムとして進めています。

#### (小林 眞 市長)

すべての授業を通じてそうでしたけれども、子どもたちが非常に明るくて元気だなと思いました。車いすだった彼が装具で歩けるようになって、運動会でも走れるようになって、治療の効果も出てきている話を聞かせていただいて、本当に素晴らしいなと思いました。

また、交流学習ということで一般教室で学習したり、休み時間には、あそこの教室に他の子どもたちも遊びに来るということを聞きました。他の教室にはない遊具などもあり、みんなで一緒に遊んでいるということでしたので、素晴らしいなと思ったところです。

それでは、この特別支援学級の授業をご覧いただいて、何かご意見、ご発言があればお願い します。

#### (武輪 節子 委員)

まずは保護者の方の負担軽減の部分で、とても良い取組をしていると思います。また、もちろん子ども本人にとっても安心して学校に通うことができるということ、そして、市長がお話になった協力学級であったり、通常学級のお子さんとともに、日常的に仲間として学校生活が送れるということが、とても良いことだなと思います。そして、その環境が整っているという

こともまた、とても素晴らしいことだなと思っております。

最初に原校長先生からお話があった、第一養護学校の先生からのアドバイスをいただいたと のことでしたが、さらに養護学校の先生方から、次はこういう形で進めていくと活動の幅を広 げることができるという部分をアドバイスいただければ、もっと充実していくのではないかな と思います。

#### (小林 眞 市長)

ありがとうございます。その他ございますか。

#### (大庭 文武 委員)

教育委員になって、学校訪問させていただくたびに思うのは、先ほどの特別支援学級の児童たちへの対応もそうでしたが、市内の小・中学校においては、支援を要する子どもたちに対して、丁寧に個人に応じた指導をしていただいていると感じております。特に高校分野しか知らなかった私にとっては、本当に意外なことでもあり、これだけ小・中学校の先生方は支援を要する子どもたちと向き合っているということは驚きでもありました。こうした子どもたちは、必ずしも支援学校だけではなく、普通高校や専門学校などへと進学していくわけで、実際にそういう子どもたちも高校に入ってきております。高校側でも少しずつ意識は高まってきていますが、そこまでの意識というものは浸透していません。小・中学校でこういうふうに手厚く対応してきた子どもたちを、高校側でその芽をつぶしてはいけないなという思いがありますので、今後はこども支援センターを中心に、中学校から支援学校も含む高校への接続という部分を意識してやっていくことが必要だろうと思っています。それによって、支援を受けた子どもたちが高校でも成長していけるような、そういう体制を作っていくことが必要であると感じております。対応されている先生方に本当に感謝しております。以上です。

#### (小林 眞 市長)

はい、ありがとうございます。そのほかございますか。

#### (油川 育子 委員)

「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」ということについては、八戸市内の全教員が共有できるように、教育指導課の皆様が学校訪問を通して周知されているところです。皆さんもご存知かと思いますので、改めてここで申し上げることもないのですが、困難を抱えている児童生徒が楽しく授業に参加できるだけではなく、すべての子どもにとって「わかった・できた・身についた」が実感できる授業づくりにつなげていくということは、素晴らしい視点に立った取組ではないのかなと思っています。「わかった・できた・身についた」、そして明日も学校に来たいという、そういう意欲を感じることができました。特別な支援が必要な児童生徒に関しても導入しているかとは思うのですが、ICTを積極的に導入していくことをご提案申し上げます。例えば、教科書を読むのが困難な子どもに対しては、音声付きの教科書を提供することで苦手としていることを徐々に克服できると思います。何を苦手としているかというこ

とを把握し、苦手を I C T で補ってあげられるというやり方が浸透していけたらなということを思いました。以上です。

### (小林 眞 市長)

はい、ありがとうございます。

#### (簗瀬 眞知雄 委員)

看護支援員配置事業は去年から始まりました。先ほど武輪委員からもあったように、それまで保護者が付き添って学校へ来て、ずっと子どもさんの面倒を見ていたという時代がずっと続いていました。それが解消されたということは、保護者だけでなく、子どもにとっても、先生 方や学校にとっても、素晴らしいことだと思って見させていただきました。今日1組にいたのは看護支援員さんですか。

## (原寿校長)

はい、そうなります。

## (簗瀬 眞知雄 委員)

看護支援員さんは、2組の児童に医療的ケアがない時間帯に、1組の方に支援として入っているようなので、そういった点でも有効な活用の仕方だなと思っていました。看護支援員は看護の専門家ですので、医療的ケアの部分は大丈夫だと思うのですが、教育分野に入るという点では苦労されるところもあると思います。そういった意味で、看護支援員の方の精神的疲労や緊張感もかなりあるのではないかと拝察するので、学校サポートだけではなく、教育委員会全体でのサポートも考えていかなければならないと思っています。

## (小林 眞 市長)

ありがとございました。武輪さんからもお話があったように、通常学級の子どもとの交流は、 支援を必要とする子どもたちにもいいわけですけれども、通常学級の子どもたちの社会性を育 てるという点でも、大変意味があるのではないかと思います。特別支援学級の子どもたちが一 堂に介して学習している部分、その辺のことをもう少し詳しくお願いします。

#### (原寿校長)

1組の授業では、買い物に向けたお金の計算を行っていました。年間行事の中には、特別支援学級の合同遠足や種差での宿泊学習などがあります。また、教育委員さんもご覧になったときがあると思いますが、ラピアで行っている「ふれあい作品展」などもあり、そこまでバスに乗って行ったり、そこで買い物をしたり、食事をするときにお金を管理して使えるということがとても大事になりますので、そのような大きな行事に向けて、今日のような授業が生活に根差していくように、一つの目的意識をもって進めています。

#### (小林 眞 市長)

印象としては、通常学級との交流という大切さを感じました。そういうことを考えると、養 護学校との交流ということも将来的に考えていかなければならないのかなと感じました。

#### (原寿校長)

実を言いますと、先週、八戸第二養護学校のお子さんが5名、先生と親御さんと一緒に来ました。全部ここに住所があるお子さんになりますが、居住地交流という形で一緒に半日過ごして、ご飯を食べたり、一緒に授業をしたりして交流をしました。これからもこのメディアセンターやホールを使いながら、進めていきたいと思っております。

#### (小林 眞 市長)

そういうことも計画的にやっていければいいのかなと思います。また、大庭委員からも、子どもたちが高校、専門学校へと進学していくというお話がありましたけれども、育っていく段階で選択肢があるような、いろいろな可能性があるということを常に念頭に置きながら、子どもたちを見守っていくのがいいのかなと受け止めさせていただいたところです。

今日、学校現場の様子を見させていただいて、総合教育会議としても今後の議論の参考になり、大変良かったなと感じております。このテーマについては、これで締めさせていただきます。

## ②新聞活用事業及び読書指導について

## (小林 眞 市長)

次に2番目のテーマとして、新聞活用と読書指導ですね。いずれについても、読書教育の推 進に関わる授業になります。

5年生の社会の授業では、地球環境に関わる問題を取り上げていました。いろいろな議論があるというのは分かっていますが、5年生にとっても非常にグローバルな大きなテーマでしたが、新聞を見ながら議論したり、考えたりするということは、非常に有効だなということを目の当たりにした感じがします。こういう言い方をすると怒られるのですが、教科書の内容は、頭に入れて覚えなければならない知識という感じがあると思うのですが、新聞を活用して、今実際に動いている世界の話が、小学校の中で話し合われるということに驚きを感じるとともに、学校に新聞が取り入れられ、教材にされているということの素晴らしさを感じたところです。では、委員の皆様からご意見を承りたいと思います。

#### (簗瀬 眞知雄 委員)

社会科では、新聞を活用してアマゾンの森林火災を取り上げ、グローバルな世界を捉えて授業を行っていました。私が大事だと思ったのは、西白山台小学校はアカマツの木材で建設されており、そのことがグローバルな問題と全く関係ないわけではありません。本当に身近な問題

であるところが大事な視点であると思いますし、地域密着型教育を進めていくということから も、新聞で見た世界の情勢を自分たちの身近な問題へと視点を変えていくことが非常に大事だ と改めて感じました。

### (小林 眞 市長)

ありがとうございます。

#### (油川 育子 委員)

市長さんもおっしゃっていましたが、新聞は学校教育と現実社会をつなぐという大きな役割 を果たしていると思います。実際に新聞を使った授業を拝見いたしまして、それを確信いたし ました。

2007 年にスタートした小・中学校の全国学力テストでは、「資料を読み、理解し、自分の考えを記述する」という問題が出題されているかと思います。このような問題を解く力を鍛えるということが、新聞を活用した学習であるかと思います。学校では今日のように社会科や国語、また朝自習や宿題等を通して、どんどん新聞を活用していただけると読解力や言語能力の向上にもつながると思いました。

## (小林 眞 市長)

はい、ありがとうございました。

#### (大庭 文武 委員)

このメディアセンターは本当にいい空間だと思いますね。読書指導や新聞活用という点からも、このようなフリーな空間で子どもたちが自ら本を取ることができるということを大事にしたいと思います。特にこれからの子どもたちは、様々な情報が錯そうしていく中で、正しい情報を自分で取捨選択して、ものを考え、判断していく、そういう力が求められていくと思います。文章、活字を読みながら、いったん立ち止まって、あるいは行間を読むといいますか、そういう作業を大事にしてほしいと感じています。

最後に、今日のこのメディアセンターでの授業の中で、子どもたちが床に座りながら、お互いに本を見せ合っていました。普通の図書館や高校の図書館では、静かに読みなさい、静かに勉強しなさいという感覚なのですが、ここは小学校の図書室だよな、と思って拝見していました。別に机に座らなくてもいいわけですので、友達と一緒に好きな本を持ってきて、好きな場所に座りながら、お互いに見せあって話をする、これも小学校の図書室としての在り方であることを感じました。

#### (小林 眞 市長)

私も本を読むときは、ベッドで読んだり、お風呂で読んだりと、机で読むことは少ないですね。武輪委員さんは何かありますか。

#### (武輪 節子 委員)

今日10月15日は日本新聞協会が定めた新聞週間だそうです。「ひらく・楽しむ新聞活用事業」は、新聞を学校に配備しようということで、この総合教育会議の場でいろいろ議論して始まったと思います。今日は、社会の授業で新聞を活用した授業を見せていただきましたが、「ひらく・楽しむ新聞活用事業」の視点からお話ししますと、各学校には複数紙の新聞が配備されているということで、読み比べをして、子どもたちが自分で考えることができる点もすごくいいなと感じています。学校訪問等で学校にお邪魔した際には、子どもたちが大きな新聞を広げて、一人ではなく、友達と一緒に新聞を見合いながら感想を言い合っている場面を拝見しました。今は新聞を取られていないっていない家庭も増えております。それは、経済的だけではなく、スマホであったり、インターネットを活用して様々な情報を入手することができるので、新聞は要らないという考え方もあるかと思います。しかし、学校に来て、一人ではなく、子どもたちが一緒に新聞を見られるという点では、八戸市が取り組んでいる「ひらく・楽しむ新聞活用事業」の素晴らしさを感じています。

#### (小林 眞 市長)

ありがとうございます。それぞれご意見いただきました。この総合教育会議で議論して「ひらく・楽しむ新聞活用事業」がスタートしましたが、実際の現場でどのように活用しているかは、直接目で見たことはありませんでした。新聞を図書室等に張り出したり、授業以外で活用しているのではないかと、ある程度は想定していましたが、実際の授業で新聞を使っていることを見て、この総合教育会議においての提案が生かされていることを目の当たりにして嬉しく感じ、まさに、事業化してよかったと思います。

今はテレビなどの様々な媒体を通して情報を得ることができます。しかし、整理された情報をリアルタイムに頭に入れるには、今の状況では新聞に勝るものはないと思っております。子どもたちがそういう媒体を使いながら、社会性であったり、世の中のことについて知っていくことは大事なことであると思います。先ほど、子どもたちが新聞を一緒に見合っているというお話がありましたけれども、そういう形で意見交換したり、あるいは先生との議論の中で取り上げていくというのは、実際の授業を見させていただいて、とてもいいなと感じたところです。

読書指導については、学校司書の方のお力も大きいなと思いました。段ボールを使って書架の工夫をされていたり、トイレットペーパーの芯を使って文鎮を作ったりと、そういうことも含めて、細かな配慮が行き届いた展示を見させていただきました。また、保護者を含めた読み聞かせボランティアの方も結構いらっしゃるようですけれども、今日、原校長からお話を伺ったら、是川からタクシーで往復しているボランティアの方もおられるということで、まさに地域が学校を支えるということを見させていただいたなと思います。ここでの取組がモデルになって、全域的な広がりを持っていければなと感じたところです。以上で、このテーマについては終わらせていただきます。

# ③タブレット機器等を活用した授業について

## (小林 眞 市長)

次に最後のページですけれども、タブレットを活用した授業についてのご感想、ご意見等が あればお願いします。

原校長から何か補足はありますか。先ほど聞いたところによると、非常にタブレットの使用 頻度が高いので、時々接触不良が起きたり、そういうトラブルがあるというお話を聞きました けれども、その辺の補足をお願いします。

#### (原寿校長)

今日はタブレットの授業も行いましたが、活用の仕方はまだまだこれから工夫をしていかなければいけない部分かと思います。今日のような使い方のほか、体育では自分の運動している姿を動画で撮影して、子ども同士で教え合う際には非常に有効なツールだと思っております。また、こちらにあります青いタブレットについては、特に外に持ち出す際は、落としてしまう可能性がありますが、そういう場合も安全に、故障なく使わせていただいております。これだけネットワークにつないでもフリーズしない環境があるということも大事なことですし、本当に恵まれていると感じております。今後はプログラミング学習など様々ありますけれども、活用していきたいと思います。また、昨年は高専の学生さんが来て、プログラミングを学ぶ機会がありましたが、タブレットを活用して少しずつ進めている状況であります。

## (小林 眞 市長)

ありがとうございます。理科室がすぐそこなので動線が近く、理科の実験中にすぐ来て調べることができることが、非常にいいというお話も聞きました。また、子どもたちの理科のテストにもいい影響があるということも聞きました。どなたからでも結構ですので、順次、お話しいただきたいと思います。

#### (武輪 節子 委員)

タブレットに関しては、先ほど原校長からも話がありました。今日は国語の授業でしたが、体育の授業の時に、自分がマット運動をしているところを映像で撮って、それをみんなで見て、どういうところを直したら、上手くできるようになるかを話し合う、というような話もありました。とてもいい取組である反面、今日のような授業はいいのですが、体育や国語の読み方で自分の発声を映すことによって、自分を客観的に見るというところでは、映像があまりにもリアルで、逆に自分の弱点がはっきり見えすぎる部分もあります。私はマット運動などの体育がとても苦手だったので、逆に悪い部分があまりにもはっきり見えてしまって、ちょっと悲しくなる思いも感じましたので、そういう意味では、子どもたちが学校に行きたくないと感じないようにも、使い方であったり、指導の仕方というものを考えていかなければいけないと思います。

#### (小林 眞 市長)

他にありませんか。

#### (油川 育子 委員)

私は、このタブレットに関しては積極的な導入を願っています。それは3つの理由があります。1点目ですが、小学校に通っている子どもたちの半数は、現在存在しない仕事に就くということが予測されている中、ICTを使いこなす力を身に着けさせることは、とても重要なカテゴリーの一つではないかなと思いました。そういった点では、今日の児童の皆さんは全く違和感なく、先生の指示を聞きながら操作を進めていました。

ICTを導入する場合に共通理解を図らなければいけないことは、新学習指導要領の趣旨であるアクティブラーニング、主体的、対話的で深い学びを盛り込んだ授業を展開していかなければならないということだと思います。自分の課題を設定して、必要となる情報を集めて、集めた情報をもとに自分自身の考えを構築させて、その構築させたものを伝えあい、最後に振り返るという、このような一連の流れを保つことで、タブレットの導入がアクティブラーニングを推進するツールとしての重要な役割を担ってくれると思いました。今日の授業を拝見しましたが、時間的制限もあることから、タブレット活用に係るこの流れというものは拝見できなかったのですが、先生の一つずつの言葉、それに対する児童の皆さんの様子からも、タブレットがアクティブラーニングを推進するツールとして生かされていると感じました。

2点目ですが、学校における教育の情報化の実態等に関する調査によると、ICTやタブレット環境が進み、授業に活用している学校ほど、学力テストの正答率が高いという結果も出ているようです。

最後に3点目ですが、教育指導課の学校訪問に帯同させていただいている中で感じたことです。海外からの転校生が何人かおられて、現場の先生が大変努力していらっしゃいます。今後も海外からの転校生が増えることが予想されます。そういった点、タブレットは大いに活躍することと思います。

以上の3点のことから積極的な導入を願っているのですが、教員の皆さんが子どもと向き合う時間と教材研究の時間が増やせるように、働き方改革を進めていく必要もあると思いました。

## (小林 眞 市長)

ありがとうございました。

#### (大庭 文武 委員)

私は、このタブレットの導入という話が出てきたときには、実は懐疑的に思っていました。 私は古いタイプの先生でしたので、黒板に向かって板書しながら、どう生徒をそこに集中させ ていくかを考えて授業を行っていました。しかし、油川委員さんからあったように、いろんな 使い方があることをお聞きし、認識を改めているところです。特に、体育等の場合に、すぐそ の場でお互いにチェックできる、確かにそういう光景もありました。撮っていた子が撮られる 側になったりと、お互いにチェックし合うことで「あなたのここ、こうだよ。」、「分かった。」 とか、情報交換をしているのですよね。こういう部分が一つのタブレットの効果なのかなと感じていました。

今日の資料を見たときに、タブレットを活用した授業が国語科となっておりましたので、タブレットをどう使うのだろうと非常に関心がありました。どちらかというと国語科の場合、子どもたちに考えさせる、表現させるということを念頭に置くのですが、授業の中でタブレットをどう使っていくのか、そして、子どもたちが考え、発想し、表現していくことが、今後の課題であると思いながら参観させていただきました。使い方次第で大変有効であり、いい部分があることを改めて認識いたしました。

#### (小林 眞 市長)

大庭委員はスマホを持っていますか。

## (大庭 文武 委員)

はい、ガラケーで頑張っていたのですが、やむにやまれず、ついこの間スマホに替えました。

## (簗瀬 眞知雄 委員)

ちょっと視点が違うかもしれません。昔はカメラで撮った写真を使って授業をしていました。 次はビデオカメラでの動画へと変わり、そして、プラズマテレビに映したりと、様々な授業を 展開したのを思い出します。それが今は、手軽にタブレットを使って、撮影や分析などができ るようになり、効果的に使えば有効な手立てであると思っています。同時に、実際には体験で きないようなことをシミュレーションできるという良さもあるかと思います。八戸市では20年 ほど前でしょうか、おそらく県内でも先駆けて電子黒板などを調査研究してきた歴史があるの で、今後、電子黒板やタブレットの連携や効果的な活用方法をさらに研究できるのではないか と思いました。

大庭委員もおっしゃったのですが、あくまでも様々な機器は道具であるということを忘れてはいけません。一般論として、教員がこのような機器を上手に使いこなせることのみで、教員の資質が上がったと勘違いしないようにしなければなりません。必要な道具を必要な時に使うという視点を踏まえて、しっかりと影の部分も考えてほしいと思っています。

今日の授業で一番感心したのは、画面に教材文が出たときに、みんなでしっかりとした声で音読をするという一コマがありました。そういうふうに、道具を使うことと、実際に生の手を動かすことや声を出すこと、そのバランスをとることが非常に大事ではないかと思います。タブレットはペンでタッチすると動きますので、最近は筆圧とか筆順、字形といったものがないがしろにされている感じがするので、道具に使われるのではなく、道具を使うようにしたいと思いました。

#### (小林 眞 市長)

ありがとうございます。我々の小学校時代と一番違うのはこの点かなと思いますね。自分の 職業人生の中でも急速にIT化が進んできました。その当時は、予算を管理している会計課に パソコンの導入について言っても、なかなか入れてくれませんでした。私自身はとにかく仕事場にどんどん入れたいと思っていましたので、秋葉原に行って、自分たちで金を出しあってパソコンを買ってきたという経験があります。

その後もIT化は進んでいって、痛いほど有効性についても分かっているのですが、一方では、申し上げるまでもなく、負の面というのが言われています。武輪委員からもお話がありましたが、インターネットで傷つけられたとか、そういうことにも教育現場では配慮する必要があると思っています。八戸には誘致企業としてIT関係の企業もたくさんあり、彼らが「八戸IT・テレマーケティング未来創造協議会」というのを作っています。インターネットセーフティにかかわるリテラシーに関して、学校の先生や子どもなども対象に講座等やっていますので、教育委員会としても彼らの活動を活用しながら、情報モラル教育を進めていただければと思います。

市議会や庁議にも、ようやくタブレットが入ってきました。みんなで、どこを押せばいいのかとやっていますけれども、我々もまだそのくらいの世界にいます。皆さんから共通してお話があったように、これまでに積み上げてきた教育の在り方の中にタブレット等をうまく取り入れる、そして、それが独り歩きしていかないよう、まさに道具として活用していることが一番であると思っています。確かにタブレットでは筆圧は表現できませんし、だからこそ日常的に手書きをするということも大事かなと思います。私も最近漢字が出てこないことがありますね。さっき子どもたちが本を借りるときに、借りる本の名前を書いていましたが、日常的な場面で手書きしていくというのも大事かなと感想を持ちました。

それでは総括的にこれまでいろいろと意見をいただいたわけですけれども、教育長のほうから、まだ、時間もありますので、十分時間を使ってお話いただければと思います。

## (伊藤 博章 教育長)

ありがとうございました。この中で、唯一スマホを持たない教育長になりますが、私はおそらく最後まで持たないだろうと思います。皆様のお話を聞きまして、活字を見て考えることは、今の時代だからこそ大事であると正直に感じています。自宅では数台のパソコンを使っているのですが、日常的には顔と顔を合わせてコミュニケーションを図ることが大切だと思っています。道具は日進月歩で便利になってきていますが、仕事をするときもひと手間を惜しまず、相手の心を思いやって、言葉を選んでお互いに伝えあうということは、速さや利便性とは必ずしもイコールではないと思います。意固地になってスマホを買わないわけではないのですが、市長がスマホを使っているのを見て、欲しいなとも思ったりします。カメラをかざすだけで、全部それが日本語で出てきたり、言葉の聞き取りもかなり精度が高くなっています。また1、2年もすると、さらに精度が上がっていくと思いますので、そういう利便性は認めています。

さて、総合教育会議も5年目を迎えました。市長が挨拶の冒頭に5年目を迎えたとお話されて、そんなに経ったんだなと、私も改めて感じました。この総合教育会議で議論されたことのほとんどは、形になり実現へと結びついてきました。そのことは現場の教育環境にも、大きく寄与しているというのも事実であります。総合教育会議の意義を原点に帰りますと、これまで教育委員会だけで行ってきた事務に対して、首長と教育委員会が意思疎通を図りながら、地域

の教育の課題やあるべき姿を共有し、一層市民の声、民意を反映した教育行政の推進を図るということが目的であります。これまでも教育施策については、お互いに意見交換してきましたが、やはり以前に比べて、市長部局との連携が格段に円滑になりました。そのおかげで、スポーツ活動・運動部活動指針の策定、あるいは、こども支援センターの充実につながっているのは事実ですので、この5年間を通して、大きな成果を得ることが出来たと感じています。

今日の授業では、市内に二つしかない肢体不自由児学級の実情を見ることができました。また、「ひらく・楽しむ新聞活用事業」や「マイブック推進事業」を核とした本の取組についても、本校の最先端のこの図書室、メディアセンターでつぶさに見ることができました。先ほどの最先端のタブレットを使った授業については、私もこの西白山台小学校で初めて見ることができました。児童2人で1台のタブレットを使っておりましたが、担当に聞いたら、今回は新型のタブレット20台のみを授業で使い、意図的に2人1組で授業を構築していると言っていました。後ろ側にあるのが旧型のタブレットなのですが、これも合わせると本校でタブレットは40台あることになります。したがって、本当は1人1台ずつ使うことができるのですが、やはり学びあうという観点から、あえて今日は2人に1台で授業を行ったそうです。

それから、窓際にキーボードがあったのをご覧になった方もいると思います。プログラミング学習においては、タブレットだと少し画面が小さいですので、大きなディスプレイをわざと設置しているとのことでした。そういう意味では、最新のICT機器の整備はもとより、それを授業の中で活用しているという点については、小学校4年生の段階で使いこなしていますので、さらに習熟していけば、もっと適切な道具として使うことが可能になっていくだろうと思います。

先般、県内 10 市の教育長会議が黒石であり、出席してきました。八戸市は校内LAN、校務支援ソフト、タブレットを始めとしたICTの設置率は、全国的に見るとまだですが、県内では群を抜いて高く、非常に恵まれた環境の中にあります。他都市では予算計上に頭を悩ましたり、なぜ教科書のほかにICTが必要なのかという意見も無きにしも非ずです。八戸市は行政においても理解が進んでいますし、学校現場の授業の中でもICTを活用できている事実を拝見することができ、大変心強く思いました。

順番が逆になりましたが、次は各校での新聞購読、マイブック推進事業についてになります。この新聞購読については、平成28年8月の総合教育会議で話し合われ、来年度から学校に対して、定期的な新聞配備を行うことになりました。これは市長の発案でしたが、最終的にはこの総合教育会議で皆さんの意見を集約し、実施へとつながりました。私の手元にその当時の新聞記事がありますが、地元紙が特集記事を掲載しております。この中に、市長の発案理由が書かれていました。「若い人たちの活字離れを大変危惧している。「本のまち」構想と連動させて、活字に親しむ環境を作りたかった。」とありました。これは市長と相談したわけではないのですが、私もかねがね、このことを思っていました。キーワードは「連動」という言葉かと思います。新聞は新聞、読書は読書、別のものではないということです。新聞と本が連動して活字離れを防ぎ、その活字をもとに考える子どもたち、議論する子どもたち、自分の言葉を持つ子どもたちを育てる、これが教育の新聞活用であり、「本のまち八戸」が目指すところであろうと思うのです。そして、市長は最後にこんなことを述べているのです。「先生方や子どもたちの声を

聴きながら、現場の負担にならないようにやっていく。」と述べているのです。こういうことは 私たち教育委員会が言うことはあっても、普通の首長は述べないと思うのです。我々の教育委 員会定例会、それから様々な会議の場でも、いろんなことをやることはいいことだが、それが 学校の先生の負担にならないように配慮していくことが必要ではないかと話題になります。元 に戻りますと、新聞にしても本にしても、先生方や子どもたちの過重負担にならないように、 新聞を読むのが楽しい、本を読むのが楽しい、そういう活用の仕方が大事だと思っています。

そういう意味では、今日の新聞を使った授業は感心しました。なぜ、こういうふうにアマゾンが火事になるのかという問いに対して、最初の子が「リゾート開発」と言ったのですね。私は面白い視点だなと思いました。そのあとに「農地を広げるために」とか出ましたよね。こういう問題については、教科書ではもう遅いのです。タイムリーな新聞記事だからこそ、今、世界で一番大きな問題になっているアマゾン火災を取り扱うことができたのです。火災が続くと二酸化炭素が増え、酸素が欠乏していくことで、地球環境が最悪な状態になるということは教科書に載っているかもしれませんが、ここまでタイムリーには載っていないのです。そして、この木材を多用した校舎とも無縁ではありませんよね。これと連動させながら、今日的な話題を子どもたちに考えさせていることは、5年生の新聞活用の授業としては素晴らしい。つまり、新聞だけを読めばいいのではなくて、それを自分のことに置き換えながら、私たちを取り巻く環境とどのような関係があるのかということを考えさせており、大変感心した授業でありました。

最後に特別支援の授業についてですが、私はこの授業に大変興味を持っておりました。医療的ケア児の一助になればというので、看護支援員を市内2校に配置して2年目になりました。朝から晩まで医療的措置は必要ありませんので、その他の時間はどのような勤務になっているのか心配していましたが、今日は、つばさ学級のほうで特別支援アシスタントと同様の業務をやっていましたよね。聞きましたら、1日に3回程度、導尿等が必要な時はそちらの仕事をしますけれども、あとはアシスタントの仕事をしているとのことでした。簗瀬委員もお話しましたけれども、看護支援員は看護師の資格は持っていますが、教育分野は専門外になりますので、教育的な支援もできるように全校体制でサポートしていく必要があると思います。通常学級でのアシスタントの在り方も学びながら、医療、教育どちらにも対応できるようになると、また看護支援員の幅も広がっていくと思います。ただ、実際に看護支援員が配置されて、子どもさんのお母さんがお勤めできるようになり助かっているという声を聞いて、大変良かったなと思います。

最後に、私は好きな言葉で「環境は人を作る」とよく言うのですが、この「環境」というのは新しい学校だからということではありません。この学校は工藤さんという方に設計をしていただきましたが、これまでも3回ほど設計者自らが学校に来て、子ども達や先生方、地域の人に対して、この学校を設計した意図や願いを講演しています。設計者の意図を先生方や子どもたちも理解して「使い切る」ということがとても大事だと思うので、それが今日のどの授業等を見ても生かされていたなと感じました。

少し脱線しますが、先日、横浜市議会議員の方々が八戸においでになりました。その時に、たまたま隣に座った方から、横浜でも木造の校舎を作りたいとの話を伺いまして、私は迷わず

に、設計者の思いがこもった西白山台小学校を紹介しました。それほど、子どもたちや私たちの教育にとって、教育環境は非常に大事だと考えています。ただ、すべての学校を新しくすることは現実的には大変厳しいですので、古い学校でも取り入れることができる取組などがあると思いますので、そういう意味で、これからさらに活用していただければいいなと思っております。

今日の総合教育会議では、市長と一緒に学校現場を視察することができたという意義は、非常に大きいものがあると思っています。本当に原校長先生にはご面倒をかけたと思いますが、これからもどうぞ頑張っていただきたいと思いますし、子どもたちをこの素敵な環境の中で育てていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

#### (小林 眞 市長)

ありがとうございました。今日は初めて、総合教育会議での現場視察ということになりました。今、教育長の話を聞いていて思い出したのですが、この総合教育会議という制度ができるというときには、私は反対だったのです。選挙で選ばれた首長が教育委員会に対して物を申すということは、私も含めていろいろな首長がいますから、それぞれの地域が積み上げてきた教育行政が壊されるのではないかということで反対でした。法律が変わり、やらざるを得ないということで、総合教育会議を開催してきましたが、少なくとも八戸市では、これまでの5年間経過する中で前向きに進めてこれたかなと思います。これもすべて委員の皆様のご努力によるものと思います。今後も子どもたちのために何ができるかということを、それぞれのお立場も含めて考えながら、この場で調整をして前向きな提案をしていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

最後になりますが、原校長先生はじめ、西白山台小学校の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。これからもぜひ頑張っていただきたいと思います。ありがとうございました。

(午前11時28分 閉会)